法と経済学研究

2023年度

麻生良文

講義計画

- [9/18]イントロダクション,Online授業
- [9/25] ミクロ経済学の基礎
- [10/02, 09] 外部性とコースの定理（2回）
- [10/16] 所有権の経済分析
- [10/23,30] 知的財産権の経済分析（2回）
- [11/13, 20] 契約法の経済分析（2回）
- [11/27, 12/04,11] 不法行為の経済分析（3回）
- [12/18] 刑法の経済分析
- [1/15,22] 学生による報告（原発事故の損害補償または都市景観，土地規制に関する論文を予定）

参考文献

- Robert D. Cooter and Thomas S. Ullen, Law and Economics(5th ed.), Pearson Education , 2007
  （邦訳）クーター，ユーレン『法と経済学』，大田勝造（訳），商事法務，1990年 （2nd ed.の翻訳）
- Thomas J. Miceli, Economics of the Law, Oxford Univ. Press, 1997
- スティーブン・シャベル『法と経済学』日本経済新聞社，2010年
- 麻生良文『公共経済学』有斐閣，1998年
- 麻生良文『ミクロ経済学入門』ミネルヴァ書房，2012年
- 矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店

講義ノート

- http://www.law.keio.ac.jp/~aso/
- e-mail : aso@law.keio.ac.jp

イントロダクション

法と経済学

- 法律の根拠，あり方を経済学的に分析

考え方，特徴

- 当事者の合理的行動を前提にしたモデルで分析
- ミクロ経済学の応用
  - 外部性，コースの定理が重要
- 法律・制度が当事者のインセンティヴをどう変えるか
- 効率性（社会的費用最小化）を実現するためにはどのような法律・制度が望ましいか

講義の概要

以下は，講義の概要

- ミクロ経済の基礎
  - 価格メカニズムの役割
    - 消費者余剰，生産者余剰
  - 市場の失敗と政府の役割
    - 公共財，外部性，独占，情報の非対称性
- 外部性とコースの定理
  - 外部性
  - コースの定理
  - コースの定理の含意

所有権，知的財産権の経済分析

- 所有権の意義
- 所有権の設定
  - 社会的費用の最小化
  - 取引費用
- 所有権の対象
  - 公共財と私的財
- 知的財産権
  - 発明・発見→公共財
    - 事後的には無料で使用させた方が望ましい
  - しかし，そうすると開発者は開発費用を回収できない
  - 開発のインセンティヴと効率性のトレードオフ
  - 最適な特許期間は？

契約法の経済分析

- 契約違反
  - 損害賠償の計算方法
  - 救済方法の類型
- 契約違反の救済方法と予防行動
  - 効率的な救済方法
  - 一方向モデル
  - 双方向モデル

不法行為の経済分析

- 不法行為とは
- 基本的な事故モデル（1方向モデル）
  - 損害賠償
  - 最適な予防行動
  - 過失責任
- 双方向モデル
  - 責任ルールの形態
  - 運営費用
- 応用
  - 交通事故，医療ミス，製造物責任法

刑法の経済分析

- 合理的犯罪のモデル
- 最適抑止と効率的な刑罰
- 麻薬
- 刑法の伝統的な理論

都市・環境問題

- 都市景観の規制
  - 外部性の問題
  - 景観の所有権とコースの定理
- 土地利用規制
- 土地税制
- 公共事業の土地収用問題